

令和8年9月定例会 一般質問通告要旨

順番 2

質問議員名	高橋 茂	
質問項目	質問要旨	答弁者
1 5期目への決意と新発田市の将来展望について	市長はこれまで4期16年にわたり、新発田市政のかじ取りを担い、市民生活の向上と本市の発展に向け、様々な施策を進めてこられました。 人口減少や少子高齢化の進行をはじめ、新型コロナウイルス感染症、物価やエネルギー価格の高騰、頻発・激甚化する自然災害など、地方自治体を取り巻く社会情勢は大きく変化してきたものと思います。 そのような中、市長は「まちづくり実行プラン」を基本に、産業振興、子育て・教育、福祉、防災、観光、地域づくりなど、幅広い分野において施策を展開されてきました。 また、市内企業や団体、金融機関などとの連携を進め、「オールしばた」で地域課題の解決に取り組もうとされていることについても、今後のまちづくりを考える上で、大切な方向性の一つであると受け止めております。 これまで取り組んできた施策の中には、一定の成果を上げたものがある一方、ようやく動き始めたもの、これから成果を形にしていかなければならないもの、さらには社会情勢の変化に応じて新たに組みまなければならない課題も数多くあるものと思います。 そのような中、市長は先般、次期市長選挙への出馬を表明され、5期目の市政を目指して挑戦される決意を明らかにされました。 そこで市長に伺います。 (1) 4期16年の市政運営を振り返り、これまでの取組について、市長ご自身はどのように総括されているのでしょうか。また、その上で、5期目に挑戦しようと決意された背景には、どのような思いがあるのか、お聞かせください。 (2) 具体的な公約や政策については、今後検討され、示されていくものと思いますので、現時点で詳細を求めるものではありませんが、仮に市民の負託を得て、引き続き市政を担うこととなった場合、次の4年間、新発田市をどのようなまちにしていきたいと考えておられるのか。	市長
2 小学校における心臓検診の受	学校における健康診断は、児童生徒の健康状態を把握し、疾病の早期発見や早期対応につなげる大切な機会であります。特に心臓検診	

診機会の確保について	は、心疾患の早期発見や、学校生活、運動時の安全確保の観点からも重要な検診であると考えます。 一方で、検診の対象となる小学校1年生の児童は、入学して間もない時期であり、学校生活に慣れていない児童も多く、心身の成長や感情面、環境への適応には大きな個人差があります。検査そのものに不安を感じたり、集団での検査に戸惑ったり、当日の体調や気持ちの面で受けることが難しいなど、さまざまな事情が考えられます。 そのような中で、1年生の4月から6月までの限られた期間に心臓検診を受けられなかった場合、その後の受診が有料となる取扱いであるならば、児童本人や保護者にとって大きな負担となるだけでなく、必要な検診を受ける機会の確保という観点からも課題があるのではないのでしょうか。 検診を受けられなかった理由は、欠席、体調不良、不安、発達段階、環境変化への戸惑い、障がい特性など、児童一人ひとりによって異なります。大切なことは、その理由によって児童や家庭に不利益が生じることのないよう、すべての児童に対して必要な受診機会を確保することだと考えます。 そこで、学校における心臓検診の受診機会の確保について、以下、教育長に伺います。 (1) 心臓検診の無料受診の機会が、なぜ小学校1年生の4月から6月までの期間に限られているのか、その理由と制度上の根拠について伺います。 (2) 検診を受けられなかった児童と保護者への精神的な配慮について伺います。心臓検診を受けられなかった児童や保護者にとっては、「なぜ自分の子どもは受けられなかったのか」「ほかの子どもは受けられているのに」と、他のお子さんと比較してしまい、精神的に大きなショックを受けることもあると思います。学校として、検診を受けられなかった児童や保護者に対し、本人や家庭の責任であるかのように受け止められることのないよう、どのような説明や精神的配慮を行っているのか伺います。 (3) 心臓検診は、児童の健康と安全を守るための重要な検診であり、1年生の4月から6月までに受けられなかったことをもって、その後の受診が有料となることは、児童や保護者にとって大きな負担となります。小学校1年生の限られた期間だけでなく、2年生以降も含めた小学校在学中に、一定の期間を設けて無料で再受診できるようにするなど、受診時期や対象年数を広げることはいできないか伺います。	教育長
-------------------	--	------------